下通ひなまつり俳句大会

入賞作品

下通繁栄会主催の「第18回城下町くまもと肥後のひなまつり」にて、この度3回目になります「下通ひなまつり俳句大会」を開催いたしました。
今回は323作品のご応募をいただいております。
多くの皆様にご参加いただきましたこと、心より感謝申しあげます。
こちらには厳正なる審査の結果選出されました作品を掲示しております。
皆様の心のこもった俳句を、ぜひご覧ください。

季語

「雛祭り（雛飾り・雛人形など）」
「蝶（ちょうちょ）」
「山笑う」

選者

西口 裕美子氏（現代俳句協会会員／NHKカルチャー熊本教室 俳句講師）
内藤 謙一氏（現代俳句協会会員／熊本デザイン専門学校 校長）
猪毛尾 彰宏（下通繁栄会 会長）
松藤 太門（下通繁栄会 事業部長）
髙柳 和（下通繁栄会女性部長）

最優秀賞

人形を包む昭和の記事も春

チェリー

総評 2026年下通ひなまつりに寄せて

三回目の下通ひなまつり俳句大会。今年の兼題は、雛祭り（傍題を含む）、蝶、山笑う。
昨年同様、300を超える楽しい作品が寄せられ、5名の審査員が選んだ句の中から最優秀賞、優秀賞、佳作の14句が選考された。
最優秀句は次の句。

人形を包む昭和の記事も春　（チェリー）

箱を開けて、丁寧に薄紙をほどき、緋毛氈の上に人形たちを置いていく。一年ぶりに自分の位置についた人形は、去年と変わらぬ柔和な笑みを浮かべている。なんという平和な静けさ。空になった箱には緩衝材の役割を果たしてくれた紙が残る。セピア色の新聞紙にはなんと昭和の日付。春の訪れを喜ぶ記事だろうか。込み上げてくる懐かしさ。人形の箱の中には時間の層が存在する。作者は、時の流れに対する強い感慨を17音の中に描こうと試みた。ここに詠まれた人形は確かに雛である。お雛様を箱から出す日の幸せ。昭和の、あの頃・・。家族の笑顔をはっきりと思い起こしている作者がここに居る。
雛祭の嬉しさは、長い冬が終わりいよいよ春がくるのだという実感に拠る。思わずスキップしたくなる。歌をうたいたくなる。平和な春でありますように。

西口 裕美子

下通ひなまつり俳句大会

入賞作品

優秀賞

川澄みて 城下に続く ひな祭り
菅野 開心

天領のどこか気高き雛まつり
若松 節子

右左回る補助輪山笑う
後藤義太郎

佳作

蝶追いしまみれる泥と赤い頬
馬珍

阿蘇の空 雲解け合ひて 山笑う
良浩（よしひろ）

雛飾り 指先にのこる 母の愛
渡邊 萌笑

初めての 紅嬉しくて 雛祭り
福嶋 ヒロ子

マニュキアはうすもも色よ 山笑う
金田 佳子

嫁ぐとも娘は娘ひな祭り
柳田 孝裕

足取りの緩きに遊ぶ蝶々かな
南剛

アーケード耳に優しき雛の歌
坂本 節子

雛箱の 裏に祖母の名 絆継ぐ
きくよ 鵜

山笑う 白川の水 光増す
笑福